米山奨学委員会
大学／地区意見交換会

米山奨学委員会 委員
北山治信 （東大阪みどりRC）

日　　時：2013年７月12日（金）15:00～17:00
会　　場：ガバナー事務所
参　加　者：西谷雅之委員長、近藤菜穂子副委員長、
田中眞人、吉田悦治、田中隆弥、古城紀雄、島井宏子、口野孝、北山治信各委員
参加大学等：追手門大学、大阪大学、大阪教育大学、大阪経済大学、大阪経済法科大学、大阪工業大、大阪国際大学、
大阪産業大学、大阪商業大学、大阪市立大学、大阪電気通信大学、関西大学、関西外国語大学、近畿大学、
摂南大学、相愛大学、東大阪大学、（独）日本学生支援機構 大阪日本語教育センター、
大阪コミュニケーションアート専門学校、大阪ハイテクノロジー専門学校

7月12日、地区米山奨学委員会と大学・専門学校との地区懇談会がガバナー事務所会議室で行われました。2014年度の米山奨学生を選考するにあたり、17の大学と３校の専門学校の担当者の方々にご出席頂きました。

古城委員の司会のもと、西谷委員長が挨拶され、昨年より重視された学校からの推薦学生の国籍基準、推薦される学生が一国籍で過半数を占めないと言う内容を再度確認され、米山奨学事業の抱えている現在の問題点についてお話しされました。

現状、米山寄付が減り採用される米山奨学生も少なくなっている現実を打破する為に、どの様な留学生の推薦をお願いしたいかと言う具体的な次の内容も発表されました。

1）推薦される学生の現在の日本語能力は問わない。
2）コミュニケーション能力が有る事。
3）ロータリアンの方々に好かれる性格で有る事。
4）例会（月に一回）、米山行事への積極的な参加が出来ること。
5）奨学生終了後もロータリーとのつながりを大切に出来る事。

以上の様な学生を推薦して頂き、ロータリアンの中での米山奨学事業ファンを増やす事につなげ、ロータリアンの米山寄付を増やしていただき、当地区で採用できる米山奨学生を増やす事に、大学等担当者の皆様に御協力願いたいと述べられました。

つづいて、大学等の担当者の皆様に事前にお願いしました、アンケートの内容について、募集･審査･面接･選考･ロータリーへの推薦に至る流れを各校に発表して頂きました。各校が発表された内容につき、地区米山委員との具体的な内容の確認･質疑など、米山委員の米山事業に対する熱い想いをお伝えする事も出来ました。

また、学校の担当者の方より昨年米山奨学生であった生徒が「例会参加や世話クラブの行事に参加して世界が広がった」と言う具体的な事例の発表も有り、最後に近藤副委員長の挨拶で、大学等の担当者の方をはじめ、担当教官、教授の方にもこの米山事業をもっと御理解いただく事をお伝えし、大学等と地区米山委員会が協力し、感動を与える米山奨学事業にする事を確認して閉会しました。

米山奨学委員長および
カウンセラー研修会 報告

米山奨学委員会 委員
三木得生 （豊中南RC）

概　要　2013年７月27日　午後14時から16時まで　OMMビル1－3号室
参加者　73クラブの米山奨学委員長およびカウンセラー 80名、福家ガバナー、若林地区米山担当顧問、
近藤米山奨学会副理事長、正岡・井上・辻本・山田 各ＩＭガバナー補佐、磯田地区研修委員、
米山奨学委員長以下12名の地区委員、総計100名

以下、式次第の順に報告いたします。

福家ガバナーあいさつ

米山の制度が順調なのは、カウンセラー制度に負うところが大きい。とくに精神面でのサポートの力が大きい。今後もしっかりと奨学生と絆を結んでいただきたい。

現在、財政事情がよくなく奨学生の数を減らさざるをえない状況にあるので、1.5倍の３万円のご協力をお願いした。

西谷委員長あいさつ

「米山を身近に」が今期のスローガンです。全クラブに奨学生を付けるには、会員一人あたり４万円の寄付金で可能。それをめざすために当面３万円をお願いする。強制ではないが、米山の意義を深く理解してもらい、気持ちよく寄付いただくことができるように、この研修会を開催した。

近藤米山奨学会副理事長の問題提起

奨学生の現地採用にもっと関心を持つべきである。

お金の問題で、一人あたりの奨学金の額が、ほんとうに感謝してもらえるほど十分なのか調査する必要ある。

日本人に金を出して海外留学をさせたらとの意見があるが、日本財団の仕事で、米山の役割ではない。

中国人留学生が多すぎないかとの意見については、本当の人類愛の気持ちで対処すべきである。

学友会からの推薦が台湾からだけであること。これは、日本の大学の魅力が減っているからではないのか。反省が必要では。

私はフルブライトで２年アメリカ留学したが、ホストファミリーに愛情もって面倒を見ていただいた。そのことが忘れられず、いまでも私は親米派だ。カウンセラーの皆様が温かい心で奨学生に接していただいて、日本ファンをつくっていってほしい。

DVD鑑賞「米山梅吉とその生涯について」

米山梅吉の生い立ちからロータリー結成とその後の活躍まで、ドラマ仕立てのDVD。約30分（思わず引き込まれてしまいました。日本におけるロータリーの歴史が学べました。初めて見たという方が多かったです。）

「米山奨学会の今後の展望」
古城委員によるパワーポイントを使った解説

米山奨学事業についての歴史と意義について、図や写真をふんだんに用いたて説明している。とくに第2660地区における取り組み状況をたいへん詳しく報告されており、この事業の大切さがよく理解でき、それに関われるロータリアンとしての誇りとよろこびをよびおこしてくれる。約40分（今年度より寄付を３万円にすることを皆様に理解していただくうえでもたいへん有用なツールとなります。）

若林顧問の講評

これまで、テーブル別けしてのバズセッション形式だったが、今回は、スクール形式で、米山記念奨学事業について、その誕生のいきさつから現在の取り組み状況まで、正確に詳しく理解できるように工夫されていた。

DVDの映像は初めて見たが感動的であった、また古城委員は率直に寄付金の増額を訴えられた。

浄財は目的と感動が合わさってなり立つものだ。皆様にはご苦労をおかけするが米山を幅広く知っていただけるよう力を貸していただきたい。

福田副委員長閉会の辞

カウンセラーのみなさんには、奨学生と直接ふれあいながら、共にはぐくみ育ち合う関係「共育」の観点でがんばってほしい。

単純計算で、1177名の会員が特別寄付をいただいていない。お一人１万円で奨学生６から７名増やせる。より一層のご協力をお願いしたい。

本日は長時間ごくろうさまでした。

［ガバナー補佐からのメッセージ］ＩＭの将来像

ＩＭ第１組 ガバナー補佐
正岡　哲（池田くれはRC）

私がロータリーに入会したのは、29年前のことです。入会時に「ロータリーの綱領を守って、クラブの会合に出れば良い。地区の大きな会は、地区大会とＩＭだからそれには参加しなさい。」と教えられました。

それを守って29年間、殆どの例会と地区大会、ＩＭに参加しています。その体験から考えるなら、本来「ロータリー」は、私達が自分の職場以外の人達と接して楽しい時間を持つためにあるものです。そのためには、ある程度のルールに従った活動をしないとルーズになって楽しくないと感じてしまいます。

ルールは、時代とともに変化します。また、人間の考え方も変わります。しかし「公正さ」と「信頼」は人類の不変の望むものでしょう。ロータリーは、この精神が根底にあるので、私は、ロータリークラブにずっと入っていると言っても過言ではありません。

この考えを常に持って、ロータリークラブは、様々な方向へ歩んできました。各クラブ運営や地区大会やＩＭもそうです。その事業を行う上で、その精神さえあれば、少々変わっていても、何をしても良いと私は考えています。

クラブで節約して工夫した会をもったり、少し高い講演料を払って有名人に話しをしてもらったり、メンバー会員参加型であったり、クイズをクラブ対抗戦形式で行ったりしても良いのです。どのような形式も長所と欠点があります。一方へ片寄ると改善すれば良いのです。人間の社会は、これこそ最善というものはありません。どんなに善いものでも繰り返すと飽きがきます。

これからのＩＭの将来像は、参加した後、楽しかったと感じることができるものでありさえすれば、それが最善と言えるのではないでしょうか。